

平成二十六年十二月投句

【小倉城】

放たれし鷹より猛し野の鴉

靴底をがりがり鳴らせ霰来る

フレームの枠だけ残り荒れ畑

車夫もまたポーズをとりて七五三

蜘蛛の糸からみし落葉よく廻る

クレーン止め煙草一服川普請

駅までのバス束の間の日向ぼこ

親を恋ふ猫の鳴き声冬の雨

帆柱山彼方に時雨れるるらしく

勝利

繕ひもの出して来にけり日向ぼこ

クッキーとココアたのみて日向ぼこ

セザンヌの絵を見て聖樹の銀座まで

旅の荷のひとつもなく鴨来る

背を丸め頭からっぽ日向ぼこ

冬の虫虚空さぐりて尺をとる

十二師団司令部正門冬紅葉

本堂をその影に入れ銀杏散る

読み解く連綿体や実南天

光子

佳与子

真理子

節子

由紀子